

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401748		
法人名	有限会社ベストケアサービス		
事業所名	グループホーム香雪園 1階ユニット		
所在地	函館市高丘町33番11号		
自己評価作成日	平成28年9月21日	評価結果市町村受理日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛と笑顔」の理念のもと、利用者の方が笑顔で楽しい生活を送れるよう個別ケアに力を入れている。
また協力医療機関との連携を密にし主治医に相談しやすい状況を作り、都度往診などの対応をして頂いている。
さらに地域防災ネットワークに加盟し町会との防災協定の連携、町内会の行事の参加など地域との繋がりがより深くなってきている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171401748-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム香雪園は、紅葉の名所としても知られる「香雪園」にほど近い緑豊かな住宅地に位置している。10年の歴史がある事業所であり、職員の支援の経験を活かした工夫を設計にも取り入れ、新築移転することで、利用者の生活の快適性を向上している。事業所は職員の育成に力を入れており、先輩職員が後輩と一緒に成長することができるようエルダー・メンター制度を実施しており、若手職員からベテラン職員までの層が厚く、離職率も低く抑えられている。代表者自ら認知症高齢者や地域への支援の熱意を内外に表明しており、高齢化している町内会との連携関係に取り組んでいる。近隣の小学校から年2回の訪問を受けたり、子ども神輿が訪れるなど幅広い年代との交流を行っており、利用者の地域の一人としての生活の楽しみにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「愛と笑顔」の共有のため、日常生活の中で管理者・職員がコミュニケーションを通し愛情を持って接し、利用者が笑顔で過ごせるよう実践している。	事業所開設時に職員が話し合っで作った理念と方針がある。毎年4月に職員全員で理念を振り返り、理念に込められた思いを再確認し毎日の支援で実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に加盟しており運営推進会議に参加して頂いたり市内の学校へボランティアの依頼、行事案内を出す等交流を深める機会を作っている。また町内会との防災協定を結び協力体制を整えている。	町内会活動が盛んな地域であり、学校も多く若い世代との交流も定期的に行われている。地域の様々な施設が参加する防災訓練があり、職員が参加することで地域連携にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災協定を通じ、避難訓練に参加して頂いたり運営推進会議においてもホームの取り組みを伝え、話し合いを行っている。また、行事の際、町会の方を招き利用者とともに参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	園便りの作成や運営状況の報告を行い、ご家族の意見を反映する場として活用している。	運営推進会議は同じ町内会にある同法人のグループホームと合同で定期的に2つの事業所で交互に開催している。代表者は会議で事業所の使命を表明し行政や地域との協力関係を築いている。	運営推進会議は行政が平日日中しか参加できないことから仕事を持つ家族の参加が難しい状況がある。参加できない家族からも意見をくみ取る工夫などで一層充実した会議となるよう取り組んでいくことが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者については、来訪を受け現状をこまめに伝え、アドバイスを受けている。その他、事業運営上の教示や情報交換については出来るだけ市の担当者を訪問するなど、多くの機会を作っている。	法人代表者が市役所との連絡を行っており、連携が取れるようになっている。管理者も介護保険の書類提出や年金の相談などを行い、運営や利用者の生活に必要な手続きを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、互いに拘束をしないケアについて話し合い、声を掛けあうようにしている。防犯上夜間は施錠をしているが、日中は居室への施錠もせず拘束のないケアに努めている。	身体拘束のマニュアルがあり、職員が虐待に関する外部研修を受講し関連する内容を学んでいる。また内部伝達を行い職員間の共有も実施している。言葉による抑制などを防止するため、日常的な場面を取り上げ職員同士で話し合いを行っている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを作成するとともに、虐待の研修に参加し、報告し合う場を作り、あってはならない事として注意し関わりを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料などを全職員が閲覧出来るようにしているも、活用までの理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結の時点で、時間をかけて説明するとともに重要事項に関しては、一項目ずつの説明に努め理解と納得を得られていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議推進や面会を通して、意見や要望を頂けるよう努めている。また、ご家族参加の行事においては、参加後のアンケートを依頼し、次の行事などに生かせるよう話し合いを行っている。	家族の来訪時に話をしているほか、電話での連絡を行っている。2カ月ごとの事業所便りの発行や事業所の行事に家族を招待するなど、利用者の生活の様子を知ってもらい、意見を引き出すように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などにおいて職員が意見を出しやすい雰囲気を作るように努め、良い意見は積極的に導入するように努めている。	ユニット会議や全体での会議があり、職員からも活発な意見が出されている。代表者も日常的に職員と話をすることが多く、風通しの良い風土が築かれている。職員からの意見は行事や運営に取り入れられるなど活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の日々の努力や勤務状況を把握し評価するように努めている。また、職員慰労会や新年会など福利厚生面を充実させる取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	極力、研修へ参加し会議などでの報告を行っている。また会社としてエルダー・メンター制度を取り入れており、新人担当職員を中心に全職員が新人教育に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH協会のブロック勉強会に参加するなどし、他のグループホームとの意見交換を行い介護技術の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には事前に面談や見学に来ていただき、充分話し合えるような機会を設けている。入居後も本人の言葉や様子等を把握し不安のない生活が送れるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員の方から、利用者の生活の様子等をご家族へ報告し、ご家族に要望など話して頂きやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の求めるホームでの生活要望を元に、優先する支援を見定めサービス提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に要望を伺いながら、調理や洗濯物たたみ等、職員とともに行って頂き、一緒に生活しているという雰囲気を作るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時などに職員から情報を発信しご家族の関わりにも重点を置きながら、その時必要な支援が出来るよう、情報交換を密に行えるように努めている。ご本人の状態に合わせ主治医を交えご家族との話し合いの場を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人との会話やご家族からの情報交換等で面会や電話、手紙等で可能な限り馴染みの関係を継続できるように支援している。	手紙の投函や家族や知人との電話の支援を行っている。利用者が入居前の家へ訪問する際には職員が送迎などを行うこともあり、利用者が希望する場所へ出かけられるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特性を考慮しつつ、(互いの居室訪問による交流や共有スペースでの談話など)利用者同士がより良い関わりを保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居にて契約が終了した方についても、ご家族へのお手紙や可能であれば面会なども行っている。また、退居後もご家族の訪問を受け交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情などからご本人の思いをくみ取れるよう情報の共有を図り、カンファレンス等で議論している。またセンター方式によるケアプランの作成を行っており、本人本位に努めている。	利用者がその日に行いたいことなどは、職員体制などを検討しできるだけ叶えるよう検討しているが、難しい場合が多くなっている。言葉での表現が難しい利用者も家族から利用者の習慣を聞き、継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを行い、ご家族や紹介者等からの情報で生活歴や過去の環境などを把握しながら、ご本人に適正なサービスを提供できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の様子観察などから現状を把握し会議にて情報の共有を図り確認しあいながら、状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との話し合いやカンファレンスで気づいた点など職員間でも話し合いをし、介護計画を立てている。また、ケアプラン作成時にはご本人やご家族にもケアに対する意向を伺っている。	利用者ごとに担当職員が決まっており、アセスメントや介護計画の立案を行っている。介護計画は4カ月おきに作成し、その時に必要な支援が提供できるようユニット会議で状況を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や生活表などは把握しやすいよう個別に記録し情報を共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医での受診や内科・歯科の往診、訪問理美容、面会、外出、各種行事等の他送迎のサービスを提供するなどの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内からボランティアや小学校の来訪など受けている。また、函館市SOSネットワークにも加入して万々に備えた支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の紹介等行いながら、ご本人、ご家族よりかかりつけ医を確認し、希望があれば馴染みのかかりつけ医を受診できるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医の受診対応は職員が家族と共に行動するなどの支援をしている。また、訪問医療も希望に応じて選ぶことができ歯科の訪問診療も受けることができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し看護師の定期的な訪問により、健康上の多少の変化も相談し速やかに対応できるようアドバイスを受け受診などに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、ご家族とともに医師の意見と診療方針や入院期間の見込みを伺っている。入院中は職員の見舞いや、必要に応じて看護師や医師との話し合いを受け、ご家族への連絡も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・ご家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、ご家族と話し合い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。最後までホームでの生活を希望される方については医師とご家族を交え、終末期ケアの契約を結び支援している。	事業所には看取り研修の資料があり、職員が支援の参考にすることができる。訪問医が家族への説明を行う際に職員も参加し、関係者が情報を共有しながら利用者を支えていくようにしている。今後事業所として重度化や終末期の支援について研修等を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、会議や日々の話し合い、外部の研修会に参加する等で急変時の対応を確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施、南北海道GH協会Bブロックにおける災害時等の協力体制、町会との防災協定を結ぶ等、地域との協力体制を確立している。	今年度は10月と3月に避難訓練を計画している。移転してから1度訓練を行っているが、夜間想定での訓練は未実施となっている。10月の訓練には町内会の参加も予定されている。	備蓄を含め災害時の備えを進めているが、夜間想定訓練や重要事項説明書に明記している非常連絡訓練は今後の課題となっている。災害は時と場所を選ばないことから、早期に着手していくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格に対しての言葉掛けや表情に気を付けコミュニケーションをとっている。また個人的な情報についても口外しないよう十分気を付けている。	今年4月に接遇研修を行い、言葉遣いなどについて学んでいる。今後も定期的な振り返りを行い利用者を尊重した支援の実現に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り、利用者が自分で物事を決定できるよう、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長年の生活やライフスタイルを主流とし、利用者一人一人の生活ペースを大切に過ごしやすい環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やヘアスタイル等、ご本人の意思を尊重し整えるように配慮している。また訪問理美容院の活用もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や咀嚼、嚥下状態を把握し、提供している。嗜好に沿わない際などは代用品にて対応している。また、軽作業の食事準備、後片づけなど参加意思の確認を行いながら、参加して頂いている。	献立は職員が作っており、季節感を大切に旬の食材を取り入れて利用者の楽しみとなるようにしている。家族からの野菜のおすそ分けや獲れたての魚を刺身にするなど、変化を付けて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	美味しく安全に食事が摂れるよう摂取量や嚥下状態など、一人一人の状態や能力に合わせ、ケースへの記録などを行い職員間で把握し、必要量を提供できるよう支援している。また、必要に応じ主治医とも話し合いを行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の声掛けや介助により口腔内の清潔を保てるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや介助を行っている。また、ご本人の負担とならないよう排泄用品の検討をし、それぞれに合った排泄用品を提供できるよう支援している。	利用者の排泄パターンや量などから、メーカーのアドバイスも参考にして最適なパッドやオムツを選定している。適切な支援を行うことで肌の状態が改善したり、快適に過ごせるようになるなど利用者の意欲や自信につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の摂取、食事量などを観察しつつ、必要な場合は医師への相談や往診、訪問看護師よりアドバイスして頂くなど予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、入浴して頂けるようA・B両ユニットの職員同士が連携し対応を工夫している。また個人の希望の時間などに入浴出来るよう工夫を行っている。	利用者の気持ちを大切に、希望に合せ同性介助も行っている。安心して入浴が楽しめるよう職員2名での介助を行ったり、リラックスできるよう会話を楽しむなどしている。午後が中心だが入浴時間の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室以外にもリビングやリビングソファーでくつろいだり、休息できるようにしており、音や光にも注意し本人のペースや状況に合わせた環境を提供できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴っており、常に確認できるようにしている。また、薬のセットや服薬時は日付、名前、病院名など職員同士が声を出し確認し合っている。また、わからないことは医師や、薬剤師へ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きな音楽、興味のあることをさりげなく聞きだし、活かせることはすぐに実行し、個人や共同で楽しんでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に左右されるも出来る限り希望に応じ、散歩出来るように工夫している。	歩行が困難な利用者にも外出の機会が持てるよう、リクライニング可能な車いすを準備している。家族との外出の際には職員の同行や送迎なども実施している。外出行事は年2回ほど、その他にも事業所前での夏祭りなどを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者管理の下、預金通帳を預かるなどし、ご家族とも話し合い一人一人の希望や能力に応じてお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に沿い電話や手紙の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ち、快適に過ごせるよう温度や湿度にも注意している。また、廊下や居室へは刺激的な照明は使用せず、心地よい空間づくりに努めている。	新築移転をする際には職員からの意見を取り入れ、利用者に使いやすく安全に配慮した工夫を行っている。広い洗面スペースや浴室の脱衣所からトイレへの動線にもプライバシーの配慮をしている。天井が高く、ゆとりのある間取りとなっており、テレビを見るソファスペースは利用者がゆっくり過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをリビングやキッチンスペース、事務所へ置くなどし、利用者1人の空間や、思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、ご家族の写真などを持ってきて頂き、居心地の良い生活が出来るように努めている。	居室は明るく、収納スペースがありすっきりと片付けられるようになっている。入居前から使い慣れた品や家具を持ち込んでいる。プライベートスペースとして鍵をかけることもでき、安心して暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考え廊下やトイレなどに手すりを設け自立した生活が送れるようにしている。また、クッションフロアやカーペットを敷く等安全面に配慮している。		